

経営比較分析表（平成28年度決算）

高知県 三原村

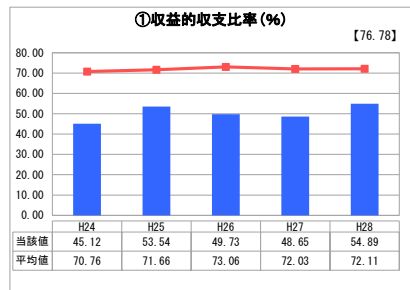
業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法非適用	水道事業	簡易水道事業	D4	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	1か月20m ³ 当たり家庭料金(円)	
-	該当数値なし	99.82	2,138	

人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
1,646	85.37	19.28
現在給水人口(人)	給水区域面積(km ²)	給水人口密度(人/km ²)
1,624	53.44	30.39

グラフ凡例

- 当該団体値(当該値)
- 類似団体平均値(平均値)
- 【】 平成28年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



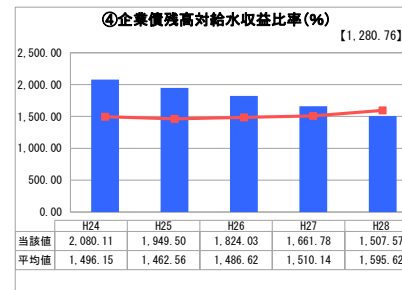
「単年度の収支」



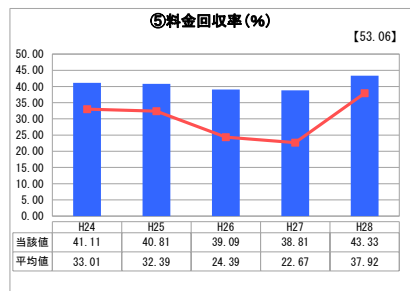
「累積欠損」



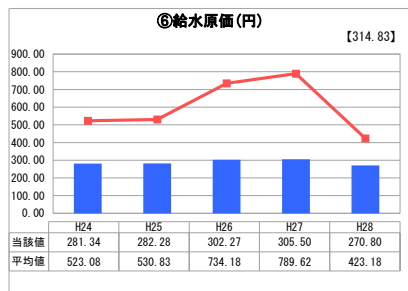
「支払能力」



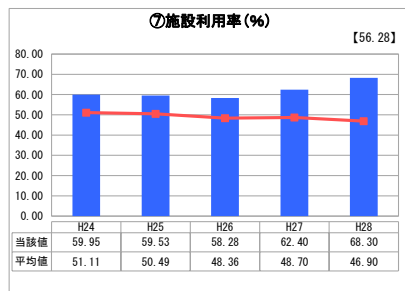
「債務残高」



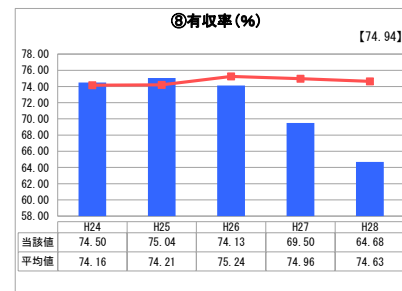
「料金水準の適切性」



「費用の効率性」

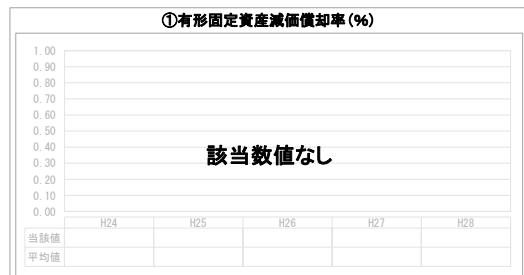


「施設の効率性」



「供給した配水量の効率性」

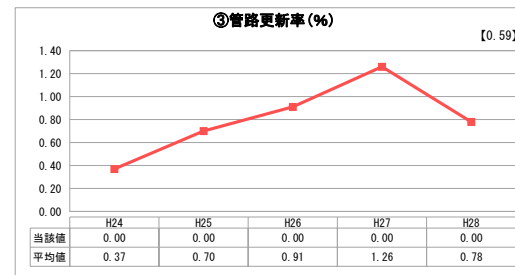
2. 老朽化の状況



「施設全体の減価償却の状況」



「管路の経年化の状況」



「管路の更新投資の実施状況」

分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

給水人口が少ないため総収益が少なく、管路延長が人口の割りに長いため経費もかさみ、収益的収支比率については50%程度と平均値を下回り、料金回収率については平均値を上回っているものの、単年度赤字であることより、水道料金の改定を含めた経営改善の取組みが必要であると考えられる。企業債残高は、これまで新たな起債の借入がなくH28年度には類似団体平均値を下回ったが、H31年度に水道設備整備を予定しており企業債残高が増となる見込みである。

2. 老朽化の状況について

施設、管路等については耐用年数が来ていないため、管路の更新等を行っていないが、平成28年度においても漏水箇所が発見された為改善しています。今後は老朽化に伴い更新を実施していく中で、地震対策も考慮した更新が必要となり、厳しい財政状況が課題となる。

全体総括

今後は人口の減少に伴い年間総有収水量は減少していくと考えられる。このような状況を踏まえ、水道事業の現状の分析を行い、将来の水需要量に見合った施設整備計画（長寿命化計画の策定）及び財政収支計画を作成するなど経営改善に向けた取組みが必要である。

※ 平成24年度から平成25年度における各指標の類似団体平均値は、当時の事業数を基に算出していますが、管路更新率については、平成26年度の事業数を基に類似団体平均値を算出しています。